



『日本における教育的進歩主義，文化的邂逅と改革』（2017）序章・1章・2章の日本語仮翻訳にあたって

川地，亜弥子

(Citation)

教育科学論集, 25:65-66

(Issue Date)

2022-02-28

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/81013368>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81013368>



『日本における教育的進歩主義，文化的邂逅と改革』（2017）

序章・1章・2章の日本語仮翻訳にあたって

Japanese provisional translation of introduction, chapter 1 and 2
in *Educational Progressivism, Cultural Encounters and Reform in Japan* (2017)

川地 亜弥子*

KAWAJI Ayako

(*人間発達環境学研究所・准教授)

キーワード：進歩主義教育 progressive education, 新教育 new education, 文化的邂逅 cultural encounters, 教育改革 educational reform, 日本 Japan

1. 原著の刊行と仮翻訳の経緯

原著 *Educational Progressivism, Cultural Encounters and Reform in Japan* は、編者の山崎洋子教授・久野弘幸教授が中心となり、英国ケンブリッジ大学名誉教授のカニングガム博士からの多大な研究的支援を得て、2017年に刊行された。現在は電子版もある。ラウトリッジ社の *Progressive Education: Policy, politics and practice* シリーズ（監修者：Catherine Burke, Jane Martin）の第1巻である。表紙は、教科書写真等でも著名な名畑文巨によるもので、桜が咲きほこっている校庭に、制服ではない子どもたちがいきいきと走っており、奥には伝統的な形の校舎がある。日本教育史を少し学んだことがある人は、この表紙からさまざまな歴史を想起するであろうし、日本の学校についてほとんど知らないという人も、典型的な学校風景を知ることができる。

刊行に向け、寄宿研究会を含む複数回の研究会をもち、日本の進歩主義教育、新教育、草の根の教育に関する刺激的な議論が行われた。その一方で、日本の教育史、制度、文化についてほとんど知らない読者を想定して、限られた紙幅で、何こそ伝えるべきかとの吟味も合わせて行われた。執筆当時の最先端の研究成果をふまえて書くこと、しかしそこに照準を合わせすぎずに、基本的な内容をしっかりと書き込んでいくことの難しさは常にあった。ラウトリッジ社からの査読結果をふまえ、各章の内容を吟味してだけでなく、年表、学校階梯図、人物紹介、地図などについても、何を載せるべきかについて、複数回に渡って集団的吟味を加えた。

個人的な経験を書くことをお許し頂ければ、兵庫、静岡、愛知、東京と各地で開催された研究会で、直接顔を合わせて日本の多様な教育について議論し、日本語読者以外に伝えるために書く、という作業は、知的な好奇心や冒険心に満ちたものであった。筆者は執筆メンバーの中で若手の一人であり、他の執筆者が惜しげもなく見せて下さる圧倒的な知識と貴重な資料の中で、この歴史を学ぶ面白さを、読者にも伝えたいと強く願ったことを覚えている。

本書を日本の研究者に紹介すると、日本語版の有無を質問

された。刊行から4年経過し、日本の教育の歴史・制度・文化をこれから学ぶ人を想定した内容であることから、日本語への翻訳は少し迷ったものの、英語での研究成果公開を検討する日本の新教育・進歩主義教育研究者にとって参考になる点も大きいと判断し、一部の仮翻訳に挑戦することにした。

2021年度「教育方法学特論演習1・2」において、受講生に本書の一部翻訳に挑戦してみたい旨を伝えると、積極的に参加を表明してくれた。本書のフレームワークが示されている序章、日本の進歩主義教育の起源と概要について書かれた1章に加え、日本の新教育の中心の1つであり、戦前の取り組みの一つの特徴を見ることが出来る木下竹次と奈良女附小（現奈良女子大学附属小学校）の第2章を訳すこととした。なお、大村はまに関する第9章は、原著者によって日本語訳（西岡2018）が公開されている（オンラインアクセス可）。

仮翻訳にあたって、和文献からの引用についてはできる限り原典を確認し、記載通りに記述した。ただし、旧仮名づかいは現代仮名づかみに改め、踊り字のうち「々」以外は文字に置き換えた。旧字体漢字については、新字体に改めたものがある。難読とみられる漢字は、適宜ふりがなを付した。

2. 原著の構成

原著を参照しながら仮翻訳を見て頂きたい。以下に原著の構成を示す（末尾の数字は冒頭ページ）。

List of illustrations	vii
List of contributors	ix
Preface by Peter Cunningham	xi
Acknowledgements	xiii
Notes	xv
Abbreviations	xvii
Key to historical eras	xix
Introduction: Progressivism, New Education, and cultural encounters	Yoko Yamasaki 1
1. Origins and outline of progressive education in Japan	

Yoko Yamasaki	11
2. Integrated Learning: Takeji Kinoshita and Nara-jo Fusho	Hiroyuki Kuno 29
3. Heiji Oikawa: Group-based dynamic teaching and curriculum reconstruction	Kie Fujiwara 41
4. Free drawing and art education: Kanae Yamamoto and Bunka Gakuin	Masayuki Haga 57
5. Nurturing truly free individuals through self-governing life: Motoko Hani's Jiyu Gakuen	Naoshi Kira 75
6. Kuniyoshi Obara's Zenjin education at Tamagawa Gakuen	Hiroyuki Sakuma 93
7. 'Daily life writing' in school: Creating alternative textbooks and culture	Ayako Kawaji 109
8. Satoru Umene: Curriculum reform and the world history of education	Akira Nakano and Yoko Yamasaki 125
9. Hama Omura's Unit learning practice for Japanese classes	Kanae Nishioka 139
10. Kinokuni Children's Village School: Theory and practice from Dewey to Neill and Aitkenhead	Yoko Yamasaki 155
11. Japanese New Education and continuing cultural encounters	Hiroyuki Kuno 169
Appendix A: Map for progressive education in Japan	175
-B: School systems	177
-C: Chronology of progressive education in Japan	179
-D: Key figures	205
Name index	213
Subject index	217

3. 仮翻訳担当者・協力者

仮翻訳の分担は以下の通りである。序章：青井郁美（人間発達環境学研究科・博士課程前期課程）・横田慧（同）。第1章：今西尚子（同）・花山陸（同）・松山聖奈（同）。第2章：津阪菜名（国際文化学研究科・博士課程前期課程）・俣野源晃（人間発達環境学研究科・博士課程前期課程）・今井智恵（同・研究生）。監訳：川地亜弥子（同・准教授）。

各章の担当者内での複数回に渡る検討と、訳者全員での検討を繰り返し、当時の学校がおかれた歴史的な脈を理解しながら、協働的に訳出することに努めた。訳者からは、歴史を学び直すことができた、他の訳書を読む際に原文を想像・確認し批判的に読むようになった、翻訳にむけてより主体的に読むことができた、などの語りがあった。

仮翻訳については、原著者からメール及びオンライン会議でご助言を頂いた。山崎（2022）の成果をご教授頂き、訳語を確定することができた。香川せつ子教授からは、グッドマン博士の研究成果に関する貴重な論考の提供を受けた（グッドマン2017a, 2017b, 2017c, 2020, 高橋2017, 山崎2017,

香川2017, 金沢2017, 並河2017）。

訳出部分の直後に主たる訳者の氏名を明記している。すべての日本語仮翻訳の最終的な責任は川地にある。読者諸賢の忌憚のないご意見をお寄せ頂ければ幸いである。

補注

- 1) 仮翻訳の本紀要における公開に関しては、ラウトリッジ社からの許可を得た（PLSclear Ref No. 58438）。
- 2) 本仮翻訳は科研費17K04549の助成を受けたものである。

参考文献（50音順）

- イギリス女性史研究会（2017）「特集 国際シンポジウム トランスナショナリズムと女性教育史研究：ジョイス・グッドマン教授招聘研究セミナーの報告」『女性とジェンダーの歴史』第4号, 1-40。
- 香川せつ子（2017）「特集にあたって」イギリス女性史研究会（2017）所収, 1-2。
- 金澤周作（2017）「コメント(1) 振り返るよりも前を見つめる歴史家」イギリス女性史研究会（2017）所収, 36-38。
- グッドマン, J. 講演, 中込さやか・内田由理翻訳（2017a）「女性教育のトランスナショナルな展開と国際ネットワーク：イギリス・アメリカ・日本」イギリス女性史研究会（2017）所収, 3-23。
- グッドマン, J. 講演, 香川せつ子要約と解説（2017b）「イギリスにおける教育史研究の潮流：ジェンダー・トランスナショナリズム・エージェンシー」イギリス女性史研究会（2017）所収, 30-35。
- グッドマン, J. 著, 香川せつ子・内山由理・中込さやか訳（2017c）「イギリスにおける教育史研究の潮流：ジェンダー・トランスナショナリズム・エージェンシー」『西九州大学子ども学部紀要』第8号, 93-122。
- グッドマン, J. 著, 香川せつ子・内山由理・中込さやか訳（2020）「プリンマー・カレッジの日本式教室にみる地方的、国家的、トランスナショナルな流れ：〈空間・時間・物質〉と女性教育のトランスナショナルな歴史」『津田塾大学言語文化研究所報』第35号, 84-104。
- 高橋裕子（2017）「コメント(1) 女子教育の国際的ネットワークの歴史化と3つのジレンマ」イギリス女性史研究会（2017）所収, 24-27。
- 並河葉子「コメント(2) 女子教育史研究の可能性：ミッション史の立場から」イギリス女性史研究会（2017）所収, 38-40。
- 西岡加名恵（2018）「<翻訳>大村はまによる国語科単元学習の実践」『教育方法の探究』第21号, 1-9。
- 山崎洋子（2017）「コメント(2) 女性教育史研究における新しい課題：トランスナショナリズムと協同的アプローチ」イギリス女性史研究会（2017）所収, 27-29。
- 山崎洋子（2022）『イギリス新教育運動の生起と展開：教師の自律性と専門職化の歴史』知泉書館。